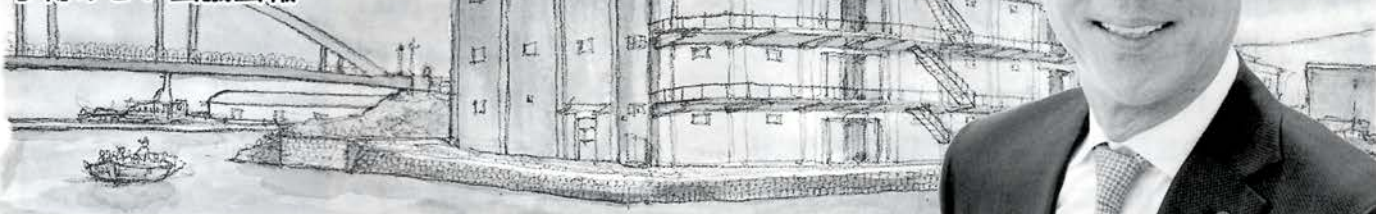


羅針盤

小樽みらい会議会報



06

【小樽みらい会議事務局】
小樽市富岡1丁目25番15号

【発行責任者】
小樽みらい会議 代表

としま
はざま俊哉

新年明けましておめでとうございます。本年が会員の皆様にとりまして、健やかで充実した一年となりますようお祈り申し上げます。

昨年は私の二期目の選挙に際しまして、皆様から力強いご声援を賜り厚くお礼申し上げます。おかげをもちまして再選を果たすことができ、早いもので4か月が経過いたしました。

二期目は私の真価が問われる4年と考えており、これまで以上に市民の皆様へ信頼感や安定感を感じていただけるよう市政運営にあたってまいります。

■昨年を振り返って

昨年を振り返ってみますと、年明けからしばしば集中的な降雪に見舞われ、市民生活に大きな影響を与えました。地球温暖化による気候変動によって、雨だけでなく雪も集中的、局地的になると言われており、その兆候があったのではないかと考えております。費用も当初の予算では足りず、増額補正を重ねて、初めて20億円を超えました。

昨冬の状況を念頭におきながら、バス路線や主要な通学路等を優先するとともに、主要な交差点の見直し確保に努め、冬の安全で安心な市民生活を守っていかねばならないと考えております。

3月には、函館本線長万部一小樽間、いわゆる「山線」をバス転換することが決定しました。並行在来線である長万部一小樽間は、北海道新幹線の開業時にJR

の経営から分離されることになっており、沿線自治体の首長の皆様と協議を重ねました。

国の支援がない中で、年間20億円を超えるこの区間の収支不足を沿線自治体で負担することは、将来の人口（利用者）減少を考慮すると鉄道の存続はむずかしいと判断せざるを得ませんでした。

11月に北海道によって、塩谷駅から最上町を経由して小樽築港に至るバスルートなどが示されたところであり、今後、住民の皆様のご意見をうかがいながら、バス転換後の利便性の確保に努めてまいります。



7月には2年10ヵ月ぶりとなるクルーズ客船が入港しました。新型コロナウイルスが発症する前の令和元年には29回の寄港がありましたが、令和2、3年の寄港はゼロでしたので、待望の入港に安堵しました。その後、秋までに5回の寄港がありました。

11月には感染防止対策など受入れ環境が整ったことから、政府はこの春から外航クルーズを再開すると発表しました。

現在、小樽港では大型クルーズ客船に対応できる岸壁改修が行われ、ふ頭周辺では官民による環境整備が予定されております。港と市街地が近接する「強み」を活かし、さらなる寄港誘致を進め、観光振興につなげたいと考えております。

子育て支援に関して、8月診療分から医療費の助成を拡大し、小学生以下の医療費を実質無償化といたしました。また、11月には、かねてからの懸案だった勤労女性センターの放課後児童クラブを稲穂小学校に移転しました。道路に出ることなく放課後児童クラブに移動することができ、保護者の皆様から要望されていた児童の安全確保という課題が解消されました。

11月には、小樽みらい会議の主催で女性セミナーを実施しました。当日は貴重なご意見をうかがいましたが、「市民の目線に立った市政」の実現のために様々な市民の皆様の意見に耳を傾けることは重要であり、今後も継続したいと考えております。



新型コロナウイルス感染症は、引いては押し寄せる波のようです。昨年の11月にはひと月ではこれまでに最高となる4,739人の感染が確認されました。これまでのような行動制限がない中で、今冬にはインフルエンザとの同時流行も懸念されております。

今後の感染拡大に備え、医療機関と連携し病床を確保するとともに、感染症対策事業費など必要な予算を措置しながら、市民の皆様の健康を守ってまいります。

■課題の解決に向けて

本市にとって将来に向けて解決しなければならない課題は様々ありますが、最重要課題は毎年2,000人ずつ減少を続ける人口の問題です。高齢化が進むなど自然減少（死亡>出生 令和3年マイナス1,558人）に歯止めをかけることはむずかしく、社会減少（転出>転入 令和3年マイナス465人）に歯止めをかける政策を重点的に進めます。

そのためには、医療費の助成拡大など子育てに関わる家計負担の軽減や、保育環境の改善や保育士の確保など子育て支援策を着実に進める必要があります。現在、そのための検討を進めております。国の制度も活用しながら妊娠から出産、子育て期の支援を一層拡充することで、若い世代の方々が安心して子育てができ環境を整備し、転出の抑制を図ってまいります。



人口対策のもう一つの柱は移住政策です。小樽の歴史的な街並みや自然環境に惹かれ、小樽への移住を検討される方も多くおります。かつて小樽が北海道経済の中心であった頃、多くの方々が未来の成功を夢見て小樽にやって来たように、小樽で起業される方々を応援するため、「ここが、ひと旗あげる場所。小樽市」を掲げ、創業を後押しする様々な支援策を用意いたしました。

まちづくりの面からは、歴史的な建造物で形成される個性的な街並みと、海や港の魅力を活かし、人や企業に共感いただけるまちづくりを進め、居住、移住、観光、そして投資の面から「選ばれるまち」を目指し、持続可能なまちを実現します。

結び

昨年、小樽市は市制施行100年を迎え、今年是小樽運河竣工から100年となります。

昨年10月に、市制100年を契機に、本市とともに100年以上歩んできた企業60社を表彰させていただきました。経営努力により環境の変化に的確に対応され、今日あることに心から敬意を表するものです。改めて、先人の偉業に感謝するとともに、受け継がれた財産を活かしながら、新たな100年に向けて次世代を担う子どもたちに引き継いでいけるよう、今後とも市民の皆様と力を合わせ努力してまいりたいと考えております。

どうぞよろしくお願いたします。